

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ストライダータウン信濃町から発信する子育て交流事業		
事業主体 (連絡先)	黒姫高原ブランド倶楽部 090-1486-3460		
事業区分	産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	4,057,810	円 (うち支援金 :	2,462,000 円)

事業内容

A. 町内保育園児にストライダー教室の実施

町内4保育園にて、幼児体育・安全体験プログラムである「エブリバディストライダー (EBS)」教室を行い、「走る」「止まる」「見る」「聞く」などを含めた基本動作を自転車のプロが指導。

子供の交通事故統計では、7歳から12歳までの自転車事故件数が多いことから就学前に十分な安全指導が必要である「交通ルール」についても指導した

開催時期：平成29年6月12・13日

体験人数：125名 (4園計)

6月12日・古間保育園：33名・富士里保育園：26名

6月13日・野尻保育園：17名・柏原保育園：49名



【ストライダー教室】



【ストライダー大会】

B. ストライダーエンジョイカップ黒姫大会の開催 (公認大会)

黒姫高原スキー場内において、夏にストライダー大会開催。全国から集まる参加者と地元との交流を深めるため、会場受付付近に地元ブースを出店し、地域の魅力を発信した。地元の子どもたちも大会運営側に参加。事前の案内看板の作製、当日の地元ブースの販売補助など社会体験、地域理解に繋がった。

大会前日夜に、大会参加の親子や地元の子供達に向けて、自転車のプロや世界的ダンサーによるパフォーマンス、信濃町の魅力を伝える「木育ひろば」などのコンテンツからなる交流イベントを開催。併せて信濃町の紹介プロモーションビデオの観賞も行い、観光PRだけでなく移住定住PRに繋がる機会にもなった。

◆エンジョイカップ黒姫大会

開催時期：平成29年8月6日

開催場所：黒姫高原特設コース

大会参加人数：354名

総参加人数：1800名 (*両親、祖父母、応援等含む)

◆交流イベントの開催

開催時期：平成29年8月5日 18:00 から

開催場所：黒姫高原スノーパーク内コスモプラザ

参加人数：180名



【地元ブース】



【交流イベント】

(別記様式第12号) (第3の8関係)

C.黒姫高原タウンカップ (地元大会)

長野県北信エリアを中心にイベント告知を行い、町内へ観光誘客、定住促進を図るためストライダータウンカップを行った

開催時期：平成29年1月28・29日

開催場所：黒姫高原特設コース

大会参加人数：70名

総参加人数：210名 (*両親、祖父母、応援等含む)



【タウンカップ】

D.エンジョイパーク整備

ストライダーは公道では走れないため、町内外の子供達が伸び伸び、自由楽しめる特設コースを整備した。(図面は別紙のとおり)

開設期間 平成29年6月から11月まで(冬期間は閉鎖)
入場は無料。



【エンジョイパーク】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

【子育て環境の向上と子供の能力向上】

町内の幼児が教育体験プログラムを実施することで、平衡感覚、運動能力を育てることが期待でき、危険察知能力や交通ルールの向上に繋がり、安全な「ストライダー」の乗り方をマスターできた。対象園児125名全員。

【観光への誘致】

エンジョイカップ、タウンカップ総計で424名の参加者。総計2000名を超える来町者。

【ストライダージャパンとの連携】

本年度の取り組みが認められ、ストライダー日本総代理店の「ストライダージャパン」から、信濃町が世界初の【ストライダーエンジョイタウンしなのまち】と認定される。タイアップイベントとして信濃町の田んぼを舞台とした「ストライダーどろんこフェス」を開催。ストライダーを使った田んぼ遊び、地元農家さんによるお米の教室、野尻湖での水遊びなど、町内を存分に使ったイベントになった。

このイベントは海外のストライダー関係者の中でも大きな話題になり、世界へ目を向けると可能性はさらに大きく広がる

【目標・ねらい】

- ① 交流人口の増加
- ② 町内環境の整備
- ③ 地元住民との連携
- ④ 次年度以降への課題抽出

※自己評価【 B 】

【理由】

交流人口の獲得、地元への環境整備、住民との連携という部分では成果を出せたが、「ストライダーエンジョイタウン」の広報が弱い

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

町民との連携を図りながら、盛り上がりは継続させ、国内だけでなく、海外にも目を向けた観光客増を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある